

コーチングスキルを援用した吹奏楽指導に関する一考察

中学校教育コース

41070850 岩元 志穂

論文要旨

本研究では吹奏楽において演奏者の主体的な表現を引き出すためにコーチングスキルを合奏指導に導入している。コーチングスキルを取り入れて奏者が主体的な演奏が出来るように、指揮者の取り組みを自身の合奏において改善していくことが目的である。分析の対象となっているのは、自身の合奏の記録、合奏を録画したビデオ、演奏者に評価させた9項目のアンケートを基に、今自身に何が足りず、どのようなスキルが必要なのか、どのような問題を解決すればいいのかを明確にした。

合奏分析より、第4回目、第5回目の合奏において、演奏者を積極的に誉めたり、演奏者の考えを引き出す問いかけを行ったりする回数が増えた。実際に、アンケート結果の「指揮者は演奏者を積極的にほめていた」と「指揮者は、演奏者に気付きやひらめきを与える質問をしていた」という項目について、第4回目と第5回目の評点が統計的に優位に高くなった。そして、演奏者の反応も変わってきた。先程の2項目と、「演奏者は、今日の合奏の中でやる気が高まった」という質問項目の変化が相関していることから、指揮者の「積極的な誉め」や「質問」の量が増えるにつれて、演奏者の「やる気」も高まっていくことが分かった。

今回の取り組みで改善された点は、「承認」のスキルを使用することにより、絶対に演奏者の意見を否定せず、演奏者の考えを引き出す問いかけを行い、そして些細な点を積極的に誉めることができたことである。それに対し、改善すべき課題として、演奏者の顔色をうかがって思うような指導が出来ない、演奏者の予想外の反応に答えることが出来ない、演奏表現の手だてが依然として一方的という点が残った。

引用・参考文献

1. 石津谷治法 (2008) 「全国大会金賞校に聞く！市立習志野高のオリジナリティは歌と踊りと楽器から創られた！」『バンドジャーナル』音楽之友社, 138-139 頁。
2. 伊藤守 (2002) 『コーチングマネジメント』ディスカバー21。
3. 榎本英嗣 (2005) 『図解 部下を伸ばすコーチング』PHP 研究所。
4. 鈴木義幸 (2000) 『コーチングが人を活かす』ディスカバー21。
5. 勝田隆 (2002) 『知的コーチングのすすめ』大修館書店。